

## 第2学年 算数科学習指導案

指導者 吉田小学校 桑原 大介

### 1 単元名 こんにちは さようなら

### 2 指導観

- 児童は、第1学年「3つのかずのけいさん」で、3要素2段階や3要素1段階の問題を学習し、「順に考える」という考え方を経験してきている。本単元では、3つの数を順に計算するだけでなく、増減する数量に着目させ、それぞれの数量をまとめてとらえて考える、すなわち、「まとめて考える」考え方を培うことをねらいとしている。「まとめて考える」考え方には、問題の数量関係を単純化し、簡潔に解決できるというよさがある。児童は、増減する数量に着目し、まとめて問題解決することは、はじめての経験である。具体的に問題解決していく中で、「まとめて考える」考え方のよさを感じとらせていきたい。
- 本単元の指導にあたっては、数図ブロックに置き換えたり、絵や図を描いたりして増減する数量に着目させ、変数に着目してまとめて考えて計算してもよいことを理解させたい。また、数量関係を的確にとらえていく力を培い、加法の結合法則につなげていきたい。

第1時では、新しい考え方である「まとめて考える」考え方について知る場面である。「順に考える」考え方と「まとめて考える」考え方を図や言葉と式を関連させて表すことで計算の仕方の違いに気づかせたい。第2時で、見通しをもたせるために前時の振り返りや図を用いて、考え方はどちらかを明確に示し、立式ができるようにしたい。第3時では、増減の場面において「まとめて考える」考え方で既習を活かしながら問題解決し、次の単元である加法の結合法則へとつなげていきたい。

本時では、まず、教科書の絵から問題場面をとらえさせたい。学習問題を読み本時の学習が増増の加法であることに気付かせる。順に考える考え方は、1年生の既習であることより概ねの児童ができると考える。新しい考え方である「まとめて考える」考え方に出会い、どのように考えたのか考え方を考える学習であることに焦点化する。考え方を視覚化するために絵を分割して提示し、変数をまとめる考え方に気付かせるようにしたい。図や式をもとに考え方の違いを考えさせ、「順に計算する」考え方と「まとめて考える」考え方をキーワードとして挙げ、それぞれどのように考えているのか説明することを学習課題と設定する。説明において言葉や式、絵や図の操作を通して話し合いを行い、理解を深めていきたい。

### 3 目標

知識・技能	○ 増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。
思考・判断・表現	○ 増減する数量に着目し、数図ブロックを操作したり、図に表したりして、まとめて考えている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 数量が増減する数場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通してまとめて考えることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。

### 4 学習指導計画（総時間3時間）

第一次 増えたり減ったりする問題をいろいろな考え方で解く。————— 3時間

第1時 増増の場面で、順に考えたり、まとめて考えたりする。（本時）……………①

第2時 減減の場面で、まとめて考える。……………①

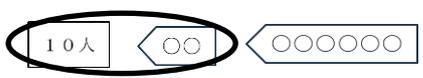
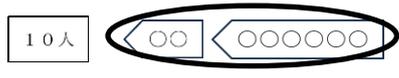
第3時 増減の場面で、まとめて考える。……………①

## 5 本時の学習活動

### (1) 主眼

3要素2段階の問題を解く場面において、図や式を使って説明する活動を通して、順に考えたり、まとめて考えたりすることに気付き、まとめて考える考えを理解することができるようにする。

### (2) 展開

主な学習活動	指導上の留意点・評価の観点
<p>1 問題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     子どもが 10人 あそんでいました。                      そこへ <u>2人 来ました。</u>                      また <u>6人 来ました。</u>                      子どもは 何人に なりましたか。                 </div> <p>2 見通しをもち、めあてをつかむ。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">考え方</span> たし算でできそう (図)</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見通し</span> しき, 図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     図やしきをつかって いろいろに考えて せつ明しよう。                 </div>	<p>○ 2人やって来た挿絵、6人やって来た挿絵を順に提示することで、増えた子どもたちを一つのまとまりとして意識できるようにする。</p> <p>○ 「全部で何人来たのか」を問うことで、2+6を意識できるようにする。</p> <p>○ これまでに考えを説明した場面を振り返り、式や図を用いて説明すればよいという解決の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 問題文を読みながら、Aの図の見本を示すことで、個人思考で活用できるようにする。</p> <p>(A) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10人</span>  </p>
<p>3 自分の考えを式や図で表す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ア</p>  <p style="text-align: right;">答え 18人</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>イ</p>  <p style="text-align: right;">答え 18人</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ウ</p> <p>式 <math>10 + 2 = 12</math>  <math>12 + 6 = 18</math>      答え 18人</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>エ</p> <p>式 <math>10 + 2 + 6 = 18</math>      答え 18人</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>オ</p> <p>式 <math>2 + 6 = 8</math>  <math>10 + 8 = 18</math>      答え 18人</p> </div> <p>○ 考えがもてない児童には、(A)の図を渡して、アやイの考えに導く。</p>
<p>4 全体場で考えを話し合う。</p>	<p>① ア→イ→ウ→エ→オの順に考えを説明する。</p> <p>② 考え方で似ているところを問い、アとウとエを結びつける。                      まず10と2を合わせて12、次に6をたしていることを押さえる。                      12が何かを問い、順に考えていることに気付くことができるようにする。</p> <p>③ イとオの考えを結びつける。                      2と6を合わせて8、はじめの10に8を足していることを押さえる。</p>

